

に貫く、前角と柿色帯の下に白色の小點あり、裏面にては枯葉上の白露の如し翅基部の籃黑色最濃し、後翅の外縁部は銅色を帶び、外縁に沿て濃蔦色の波狀線あり、裏面は一般に枯葉色を呈し、前後翅を貫き一條の黒褐色線ありて恰も葉の中肋の如し、其他翅脉は葉脉の如く翅の全面に黒點又は濃褐色の點等散在して腐れる枯葉の如し、此蝶の枝上に止まるや頭部及び體は全く翅間にかくれ、後翅の尾狀部は恰も葉柄の如く實に一枯葉の枝上にあるに彷彿たるを以て人の能く知る處なり、蓋し動物界中擬態の最顯著なる者なり琉球にのみ之を産し、多く夏月の候樹林灌叢の間飛翔す、此蝶はアルコホールを好む者と見へ酒若くは焼酒をふりまけば高き樹梢より飛降り容易に之を網するを得可し是れ予が親しく沖繩に於て實驗せる處なり

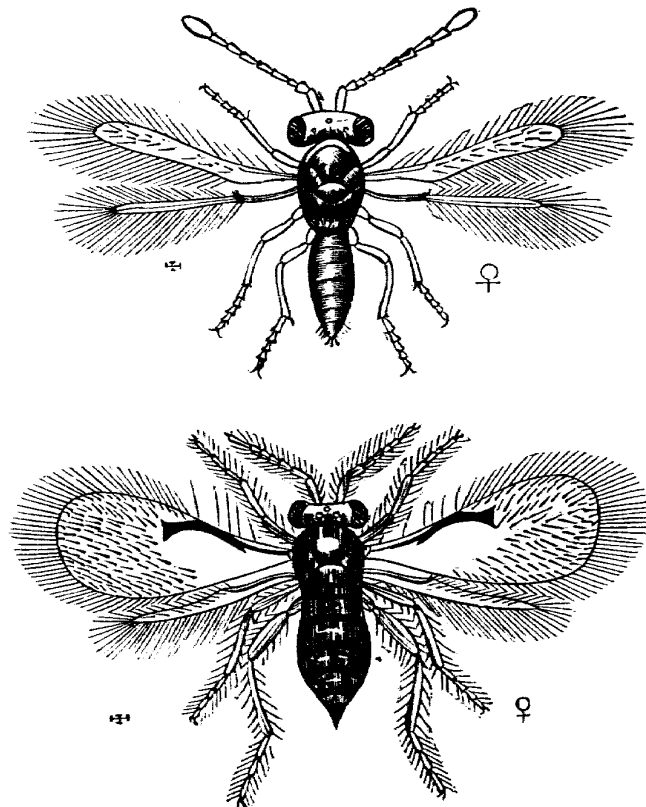
仔虫食草等未詳

●浮塵子卵の寄生蜂に就て

岐阜市京町 名和昆虫研究所

害虫を驅除豫防せんと欲すれば害虫の性質、發生、經過を

明かにするの必要は諸君の既に確知する所なり而て又其敵蟲を發見して之を利用し以て驅除豫防を補ふは今後害ツマヅロヨコバイ卵の寄生蜂雌 ヨコバイ卵の寄生蜂雌



蟲驅除の進歩と共に大ひに研究せざる可からざるなり本所に於ては常に此目的を以て研究に従事しつつあり然るに其結果として浮塵子卵に寄生する二種の有益なる寄生蜂を發見したれば左に記して以て諸君の参考に供せんと欲す請ふ之を諒せよ上圖に示すはツマヅロヨコバイ、トビイロヨコバイ、クワノアカフヨコバイ等の卵子に寄生

する小蜂にして、軀長僅に二厘許翅を擴張するとき、は四厘内外なり、全暗褐色を呈し、頭部は大形にして横に長く圓し、左右に大なる二個の複眼と頭頂には三個の單眼を有せり、觸角は九節より成り、基節長く、第二節は短大、第三節は最も小形なり、而して第四節より第八節に到る五節は同大にして、末端の一節は非常に膨大す、即ち上圖に示すか如し、翅は上下翅共に狭くして、恰も半翅類に屬するクロムクゲムシの翅に類似し、長き縁毛を生ず、脚は三對共に殆んど同長、跗節は五節より成る、雌蟲は短かき産卵管を有す。

上圖に示すはヨコバイ卵に寄生する小蜂にして、本年五月下旬、本所助手名和梅吉の發見せし者なり、軀の長さ僅か二厘五毛許、翅の擴張六厘許なり、其狀上圖に示すが如し、全軀黄色を呈し、腹部に黒帶を有し、極めて美なり、頭部は淡灰色にして、黄色を帯び、左右大なる複眼と是又三個の單眼を有すること、前種に同じ、觸角は七節より成り、基節は長く、第二節は短大、第三節最も小形にして、恰も指輪の如き觀あり、而して第四節より成り、第七節迄は漸次細まりたり、翅は膜質にして、透明細毛を生じ、長き縁毛を有すること、圖の如し、脚

は淡黄色を呈し、三跗より成れり、腹部は七節より成り、每關節上に櫛比したる粗毛を規則正しく生じ、關節面を覆へり、是れ他の寄生蜂類にては未だ見ざる所なり、右二種の外向ほ他に之あるや、必せり、何れ今後の研究を俟て再び報ぜんとす。

●理科教授資料及び其排列に

關する一新案

矢澤米三郎

理科教授の方法及び其主義綱領の攷究せられざること蓋し亦久し之を昨今に於ける教授法教育學に於ける傾向に比し之を讀書算術の進歩に較せば孰れか爲に一驚を喫せざらんや、然れども世上を通覽すれば、其事態の盛衰消長及び其現象の隱顯出沒は一に皆りずむを成せるを見る、即ち理科の少しく沈降する所以のものは大に他日に隆興するの前兆に非らざるを知らんや。

予は今茲にきいすりんぐ、ばるつ二氏を紹介せんとす、此二氏は獨逸に於ける普通教育上理科に關する一新光を放